

# 西谷会計

平成28年9月号



## 【所長のDVDコレクションより～「ジャパネットTAKATA」～】

本日紹介するのは「ジャパネットTAKATA」の高田明前社長です。2015年の1月を最後にテレビ出演を辞め、経営の一線から退いています。長崎県は平戸市の出身、大阪の大学卒業後、両親が始めたカメラ店に入社しました。当時のお店の月商は50万円、これをなんとか300万にしようとしてがんばり、300万円を達成した後は、大都市の佐世保に店を出そうとがんばったそうです。一日100本のフィルムを集めるとこを目標に、朝フィルムを出したらその日のうちに出来上がるサービスを提供して差別化を図りました。

たまたまラジオショッピングをする機会を得たところ、思ったよりも反響がありました。高田さんはラジオからスタートできたのがとてもよかったと話しています。というのも、ラジオは心が伝わるそうです。声だけで自分の心を伝えるラジオでは、時々、熱烈なファンができるのだとか。ラジオの通販では自分の他にパーソナリティも出演するのですが、パーソナリティの人が「これはいい」と思った商品は注文が爆発的に増えるそうです。

高田さんは徹底して商品にこだわったそうです。というのも、ラジオショッピングやテレビショッピングの場合、消費者からのクレームは放送局に行くことが多いのだそうです。そこで、放送局に迷惑を掛けないように、「これは絶対大丈夫だ」という商品だけを扱ったそうです。また、専門店で働く人はどうしても商品のことを難しく説明してしまう傾向にあるので、徹底してわかりやすく説明することにこだわったそうです。

このビデオは2002年の収録ですが、この時点で高田さんは、「おそらく自分の見たい動画を自分でみることができる時代が来る」と予想しています。テレビショッピングのカメラマン、スタッフは皆自前、自分で機材も人も揃えるなんて無茶だとみんなに言われたそうですが、インターネットの動画配信を見越して佐世保にスタジオをつくりました。

テレビショッピングではノリの良いキンキン声トレードマークの高田さんですが、話しぶりは言葉を選び慎重で、たどたどしいのがとても印象的でした。「夢を持つことは誰でもできる、夢を持ち続けるということが大事」という高田さんの言葉は、とても説得力がありました。

## 【所長の本棚より～ネジザウルスの逆襲～】

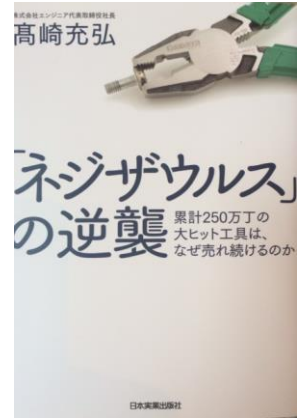
本日紹介するのは「ネジザウルスの逆襲」です。ネジザウルスというのは工具の名前です。プライヤーというパイプなどを掴むための道具を改良して、潰れたりすり減ったネジを掴んで回せるようにした工具です。1万丁売れば大成功の工具業界にあって、200万丁の大ヒットとなった商品です。

面白いと思ったのは、発売当初はあまり売れなかったことです。アイデア商品というのは、いくら自分が良いものだと思っても、独りよがりな消費者が関心を持たないケースが多々あります。普通ですと売れなければ諦めるのですが、社長の高橋さんは諦めませんでした。絶対売れるはずだという確信の元で、ネーミングを変えたりパッケージを変えたり、販売ルートを変えたりして大ヒットにこぎつけました。なかなかできることではありません。

面白かったのはもうひとつ。ネジザウルスは4代目が空前の大ヒットを記録しました。1～3代目もヒットしましたが、4代目には遠く及びませんでした。それまでのユーザーアンケートでは、「グリップをにぎりやすくしてほしい」「先端を細くしてほしい」などの意見が主流でした。しかしこのアンケートの中に「トラスネジを外せるようにしてほしい」という少数意見があり、これに注目したことが大ヒットにつながったのです。

これと同じようなお話がソニーのウォークマンの事例です。井深さんのアイデアによるウォークマンは録音なしの再生だけということで、ソニーの社員は勿論小売店も「売れるわけがない」と考えていたそうです。そんな中で秋葉原の老舗電気店の店主だけは「この発想は面白い、絶対売れる」と評価したそうです。

高橋さんは、多くのお客様が望んでいる時点で、それはすでにニーズではないと述べています。潜在ニーズというのは、少数意見の中にこそあるのだそうです。面白いですね。



## 【夏子の部屋】

暑い、夏、ねぶたの夏、お盆の夏、夏休みの夏。いかがお過ごしですか？こんにちは、夏子です。

先日東京へ行く機会があったので、今話題の「迎賓館 赤坂離宮」を見学してきました。迎賓館とは外国の国家元首や政府の長などの国賓を迎え入れたときに、宿泊等の接遇を行う施設の事だそうです。もちろん今現在現役バリバリに活躍している施設で、しかも2009年(平成21年)12月8日、旧東宮御所(迎賓館赤坂離宮)として国宝に指定、明治以降の文化財としては初の国宝となっています。

私は、「外国の国家元首のおもてなしや国をあげての行事の舞台になり、総理大臣や皇室の方々もお越しになる、現役バリバリの宮殿」に一般庶民がただの見学で入ることが出来るとは、これっぽっちも考えていませんでした。ですので長い行列の先にやっと中に入れるその時まで、「この迎賓館は今使われていない歴史の遺産なのだ」と思っていました。

バカです。城の様なものだと思っていました。バカでした。

空港のセキュリティチェックと同じ検査を外のテントで受けて、持っているペットボトルの水を口に入れて飲料である事を確認されました。チェックが厳しいのだな～と感じましたが、それでも現役の施設だとは思いませんでした。前もっての事前予約や抽選をくり抜けて勝ち取った見学チケット。手配をしてくれた主人に失礼な私でした。これからは、少しは調べてから行くようにします、てへ。

予約をしても暑い中外で並ばされる事40分、ようやく迎賓館の中へと入ります。大事な国宝ですから備品等壊さない様に、みなさん日傘も入り口に置いて行くように指示されています。そろそろと連なりやっと大広間の様な部屋へ入りました。

「おお～！」「豪華～！！」「きれい～！！！」

どよめきやため息の音が響いています。4つの部屋と階段、ホール、全てが豪華絢爛です。室内の色々な所に細かな細工や見どころがいっぱいです。また、外に出て見ることのできる主庭噴水池、正門、本館の外観も見逃せません。和と洋を上手く混在させた超豪華宮殿といった感じです。

詳しい事はとても書ききれませんので(端折りました、ゴメンナサイ)、是非一度実際に足を運んでみてはいかがでしょうか？



西谷会計事務所

〒030-0821 青森市勝田2-6-18

<http://www.248nishiya.com>

TEL 017-774-2315

E-mail [nishiya-kaikei-jimusyo](mailto:nishiya-kaikei-jimusyo@tkcnf.or.jp)

@tkcnf.or.jp